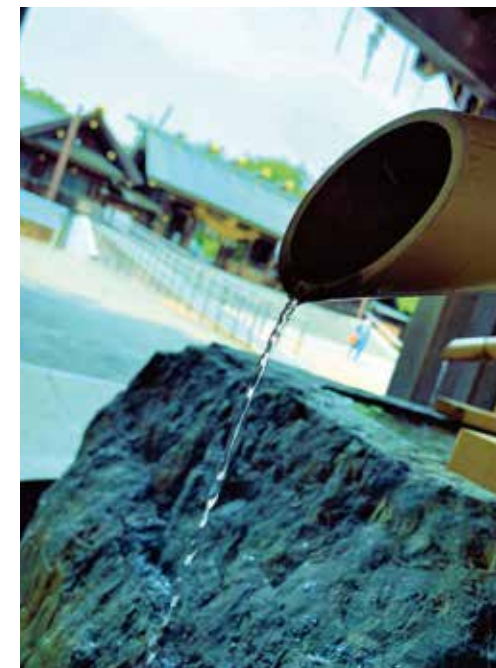




茅の輪（夏越の大祓）



手水舎

特集

〈開拓の群像〉

「大江村」から「仁木町」へ 仁木竹吉と粟屋貞一 合田一道氏

退任のご挨拶



北海道神宮
名誉宮司 吉田 源彦

神職家の次男坊として生まれ、学校を卒えて、昭和四十年神奈川県の寒川神社へお任せさせて頂き、今日まで五十七年に亘り寒川神社・北海道神宮の大神様の御神徳を賜わり、ご奉仕の日々を努めさせて頂きましたが、この程六月三十日を以って退任をさせて頂くことになりました。

顧みますと実に大勢の方々からご高配を頂き、そうした多くの交流の一つひとつが神職である我が身を育てて下さったことであります。昭和五十八年七月、北海道神宮禰宜に任せられ、爾来三十八年間大過なくご奉仕申し上げることができましたことは、偏に大神様の御加護とご崇敬の皆さまのご芳情によるものと心から有難く感謝申し上げます。

この間、平成から令和への御代替わりがありまして、当神宮に於きましても踐祚改元奉告祭をご奉仕申し上げました。また、その年の九月には御鎮齋百五十年祭をもご奉仕申し上げる機会にも恵まれ、職員一同一丸となつての御祭事でございました。

今、多くの事が思い出されますが、平常の頃には朝拝のあとは出来る限り神門を通り、ご参拝の皆様と接することを日課としておりました。その際、参詣の方々の満ち足りたご尊顔を拝することがとても有難く、日々の奉仕の糧となつておりました。そうした方々をはじめ、これまでお支え下さった皆様に感謝を申し上げますと共に、ご崇敬の皆様にも御神徳をお受け頂きますことを願ひ、退任のご挨拶と致します。

(令和三年六月三十日記)

就任のご挨拶



北海道神宮
宮司 間島 誉史秀

この度七月一日付を以ちまして本社本庁より北海道神宮宮司の大任を拝命致しました。もとより浅学菲才の身にして、その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。

さて、本年は北海道神宮がこの円山の地に鎮座致しましてより、百五十年を迎えます。この長い歴史の中で、北海道開拓事業の開始に当り、明治天皇様の勅旨による「北海道鎮座神祭」に於いて奉斎された開拓三神の御霊代を奉戴して渡道され、円山を宮地と定められた島義勇大人を始め、北海道神宮の護持と発展のため尽力された歴代の宮司及び神職の方々、またご崇敬の真心を寄せて来られた皆様のご功労に深甚なる敬意を表する次第であります。

北海道神宮は、開拓の歴史と札幌の都市形成とともに発展し、御創建以来北海道の総鎮守として、全道民の厚いご崇敬を頂いて今日に至っておりますが、今後も道民の守り神、心の拠り所としてご崇敬の皆様をお迎えすべく、全力を尽くして参りたいと存じます。

吉田名誉宮司に於かれましては、ご在任中、明治天皇御増祀五十年、北海道神宮御鎮齋百五十年等節目の大祭を宮司として奉仕され、御社頭の環境整備等に多大のご功績を挙げられました。今後は、吉田名誉宮司の後を承け、微力ではあります、御祭神の御加護のもと、北海道神宮の更なる発展と隆昌のため、誠心誠意神明奉仕に精励して参る所存でございますので、何卒一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びにご崇敬の皆様のご多幸を祈念申し上げます。就任のご挨拶と致します。

社頭風景

例祭

六月十四日(月)午後六時より宵宮祭、十五日(火)午前十時より例祭、十七日(木)午前十時より後日祭を斎行致しました。本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、神輿渡御・連合山車巡行・奉納行事・露店出店を中止とさせて頂きました。

神輿渡御は、明治十一年より始まり、以来戦時中である昭和十九年、二十年の二度の中止を除き毎年行われてきま



悠久の舞

四月～六月



退下する年番役員



豊栄の舞

したが、昨年、感染症への対策として史上三度目の中止となり、残念ながら今年は四度目の中止となりました。

祭典につきましては神職・関係者のみで斎行し、宵宮祭では人長の舞、例祭では悠久の舞、後日祭では豊栄の舞を奉奏致しました。

また、本年はご参拝の皆様にせめて例祭の空気を感じていただくため、例年のように期間中神門内に幄舎を設け、渡御の時のように飾り付けを行った鳳輦を展示させていただきました。

穂多木神社

六月十五日(火)午後一時半より末社穂多木神社の例祭を斎行致しました。穂多木神社は、北海道開拓にあたり特殊銀行として設置された北海道拓殖銀行の本店屋上に、昭和十三年に社殿を建立し、守護神として札幌神社(現北海道神宮)の祭神と物故功労者の御霊を奉斎したことに始まります。昭和二十五年には北海道神宮の境内に遷座し、以後北海道神宮の末社としてお祀りされています。



式神楽

島判官慰霊祭

北海道神宮では北海道開拓に尽力し、北海道開拓の父とも呼ばれる島義勇の遺徳を偲び、毎年慰霊祭を斎行致しておりますが、平成二十四年、名称を顕彰祭と改めることとなりました。平成二十五年には島判官顕彰会が発足し、翌二十六年、島義勇の歿百四十年にあわせ顕彰祭の後に顕彰の集いを開催し、これが恒例となりました。平成二十九年には一人でも多くの御参列を賜ることのできるよう、命日の十三日ではなく土曜日曜にあわせ斎行することとなり、命日当日には慰霊祭

として祭典を奉仕することとなり現在に至ります。

本年は昨年に続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開拓判官島義勇顕彰並びに顕彰の集いは残念ながら中止となりましたが、島判官慰霊祭は四月十三日(火)境内島義勇銅像前にて斎行の予定でしたが、雨天の為参集殿にて、神職巫女のみで斎行致しました。開拓判官島義勇顕彰会会員からは、この慰霊祭に際しお供えが奉納されました。



祝詞奏上

令和三年 島判官慰霊祭奉納者一覧

(敬称略・順不同)

- 内田光孝 二万円
- 富山富美子 二万円
- 有馬郁文 五千円
- 佐賀市 市長 秀島敏行 酒王、窓乃梅 2本 佐賀海苔 佐賀市のり 3箱
- 佐賀市議会 議長 川原田裕明 酒王、窓乃梅 2本
- 佐賀市議会 議員 福井章司 酒王、窓乃梅 2本
- 佐賀市議会 議員 黒田利人 吟醸肥前杜氏 2本
- サッポロビール(株) 北海道本社代表 小野寺哲也 開拓使麦酒 330ml 3本人×4箱
- 合同会社豆屋とかち 岡女堂本家代表社員 工場長 鈴木真智雄 「北の判官豆」 30箱
- 太良嶽神社 宮司 石井和明 小城羊羹詰め合わせ 5樽入・3樽入各1箱
- 佐賀県神社庁 庁長 徳久俊彦 佐嘉豊菓(佐賀のお菓子詰め合わせ) 1箱
- (有)小笠原商店 代表取締役 藤田菜一 もち米蜜・塩米蜜 各6本

昭和祭



拝礼する神職

昭和天皇の大業を景仰する昭和祭を、昭和天皇の御誕辰の日である四月二十九日(木・祝)午前十時に、北海道神宮にて厳

粛に斎行致しました。

昭和天皇は摂政の宮であらせられました大正十一年、即位されてからは昭和十一年、昭和三十六年、昭和四十四年の四度に渡り北海道神宮をご参拝になりました。

当日は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、参列者を制限して祭祀職員のみでの斎行となりました。

御田植祭

五月十四日(金)東川町の北海道神宮神饌田において、御田植祭を斎行致しました。早朝から東川町農業協同組合職員の方々により会場が設営され、田長を北海道農業協同組合中央会旭川支所支所長の高橋信行氏、耕作長を東川町農業協同組合代表理事組合長の樽井功氏がそれぞれ務め、祭儀が厳粛に斎行されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため参列の人数を制限し関係者のみでの斎行となりました。

五月人形展示



展示された人形

四月二十二日(木)から五月二十三日(日)まで祈祷者控殿において、人形作家・山田裕嗣氏所蔵の江戸から昭和までの貴重な五月人形を展示致しました。端午の節句は、宮中から武家、庶民へと広がっていった行事です。魔除けの意味を持つ五月人形を飾ることで、男児の健やかなる成長を祈るものとされています。今回も金太郎や弁慶、鎧兜など様々な種類の五月人形が展示されました。

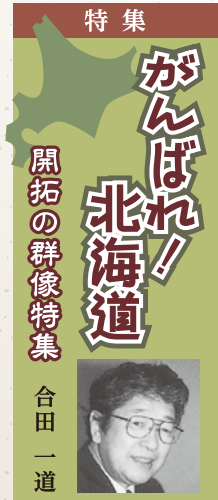


吉田宮司による神饌田の清祓

責任役員就任



当神宮責任役員 林省伍氏が逝去された為、令和三年六月一日付にて高柳司氏が責任役員に就任されました。ご紹介致します。



歴史から見えるもの ⑤⑤

「大江村」から「仁木町」へ

仁木竹吉と粟屋貞一



仁木竹吉

後志管内仁木町は、サクランボ、ブドウ、リンゴなど果物の町として知られています。この町を開いたのが徳島出身の仁木竹吉で、「仁木」はその人の名を採ったものです。それ以前は長く大江村と呼ばれていました。旧山口藩士の粟屋貞一が中心となり、近くを開拓して藩祖大江広元の姓を名乗ったものです。しかし昭和三十九年、町制施行になると同時に、大江村から、開拓の祖である仁木竹吉の姓を採り、仁木町に改称したのです。その陰に複雑な町の歴史があるのです。

仁木竹吉は阿波国児島村（現在の徳島県川島町）の出身で、家代々徳島藩家老の稲田九郎兵衛の陪臣として藍栽培をし、竹吉は後に同藩の藍製取締方を勤めています。

明治八年、四十五歳の竹吉は新天地の北海道に着目し、旧徳島藩主の蜂須賀茂韶に会い、紹介状を

奉賛会だより

◆奉賛会大祭

五月八日（土）奉賛会大祭が斎行されました。

本年は昨年引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、会員を代表して会長のみが参列し、会員の皆様の家内安全、心身健全、生業繁栄を祈りました。

また、同様に総会につきましても本年は書面にて行い、会員数二、二三四名中一、三、四二通の返信をいただき、一、三一九通の承認のもと、令和二年度事業報告並びに収支決算、令和三年度事業計画案並びに収支予算案が採択されました。



玉串を奉り拝礼する岩田会長

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございませう。令和三年三月一日から六月十五日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

（敬称略・順不同）

◆新入会員のご紹介

- 水川 潤一
- 坂井 信幸
- 野崎 朝美
- 酒井 唯達
- 酒井 静香
- 真原 徹二
- 瀧本 貴俊
- 安保 公視
- 及川 敬太
- 菅田 敬義
- 菅田 めぐみ
- 株式会社アシスト
- 桂井 俊子
- 伊原 裕
- 川村 りる子
- 藤松 宏章
- 長谷川 洋
- 重本 一好
- 漆畑 慶将
- 高柳 司
- 佐藤 剛

◆協賛者のご紹介

- ◆五万円
 - （株）東家寿楽 佐藤 元治
- ◆一万円
 - 大長 記興
 - 北陽ビルサービス（株） 其田 雅人
 - （二社）北海道商工会議所連合会 岩田 圭剛
- ◆五千元
 - 竹内 隆子
 - 岩瀧 美先
- ◆三千元他
 - 塩田 義昭
 - 工藤 政宣
 - 藤井 浩二
 - 河合 千恵子
 - 西田 善彦
 - （株）米山商店
 - 久保田 真理子
 - 宮田 恵一
 - 宮田 香
 - 松田 基

ます。開拓使が崩壊して三県になり、北海道に変わるのがこの翌年。長官の岩村通俊は「進を知って、守るを知らぬのは上策とはいえず」と暗に竹吉を非難しました。

急ぎ、仁木村に戻った竹吉は、勸業課仁木詰所の役人により村人が仲間割れし、村民十三人が逮捕され、懲役刑を言い渡されていたのです。

竹吉は仁木村の再建に取りかかり、三井物産と提携して、藍、豆、雑穀、果樹、野菜、水稲などの生産に意を注ぎ、ついに仁木村を救ったのです。亡くなったのは大正四年。八十五歳でした。

一方、旧山口藩を背負って開拓に励んだ粟屋貞一は、毛利家と移民団の間に立って開拓に動かし、後に隣村の赤井川村の開墾組合専務理事、余市開墾株式会社専務取締役など数々の公職を勤め、郷土に引き揚げました。

仁木、大江のほか山道村を含めた地域は、粟屋の功績もあって長く「大江村」と呼ばれていましたが、町制になるのを機に、ほとんど忘れかけていた竹吉の業績を讃えて「仁木町」の地名に変えたのです。



仁木竹吉碑=仁木神社境内

◆プロフィール◆
昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。「定山坊行方不明の謎」で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は「日本史の現場検証」「人間登場」北の歴史を彩る『大君の刀』など。